

謹んで

台風災害の

お見舞いを申し上げます

この度の台風十八号により

被害を受けられた皆様に

心よりお見舞い申し上げます。

ご健康に留意され

一日も早く復旧されますことを

心からお祈り申し上げます。

社団法人 北海道地域農業研究所



研究会・研修会等への

報告者・講師の派遣

(平成十六年四月)

平成十六年九月)

○「集団給食職員研修会」

主催 旭川市栄養士会

とき 平成16年5月24日

テーマ どうする北海道の食育

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「報徳研修会」

主催 北海道報徳社

とき 平成16年5月31日

テーマ 報徳と現代

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「永山女性フォーラム」

○「集団給食職員研修会」

主催 旭川市栄養士会

とき 平成16年5月24日

テーマ どうする北海道の食育

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「報徳研修会」

主催 北海道報徳社

とき 平成16年5月31日

テーマ 報徳と現代

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「永山女性フォーラム」

主催 旭川市永山商工会

とき 平成16年6月14日

テーマ 地産地消をどう進める

か

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「平成16年度北海道有機農業シンポジウム」

主催 北海道有機農業研究協

議会

とき 平成16年6月26日

○「集団給食職員研修会」

主催 旭川市米養士会

とき 平成16年5月24日

テーマ どうする北海道の食育

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「報徳研修会」

主催 北海道報徳社

とき 平成16年5月31日

テーマ 報徳と現代

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「永山女性フォーラム」

主催 旭川市永山商工会

とき 平成16年6月14日

テーマ 地産地消をどう進めるか

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「平成16年度北海道有機農業シンポジウム」

主催 北海道有機農業研究協議会

とき 平成16年6月26日

テーマ 北海道農業の元気を考える

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○「第32回全道結婚相談研究協議会」

主催 NPO法人 北海道マリッジカウンセリングセンター

とき 平成16年7月8日

テーマ あなたが変われば地域も変わる

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○「平成16年度日本農業経営学会研究大会シンポジウム第2分科会」

主催 日本農業経営学会

とき 平成16年7月17日

テーマ 北海道農業の進路と多様な農業展開

座長 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○「北海道・福島県交流協定記念シンポジウム」

主催 福島県

とき 平成16年7月17日

テーマ 北海道と福島県のゆかり

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「上川女性フォーラム」

主催 当麻町教育委員会

とき 平成16年8月20日

テーマ 北海道スローフード宣言

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「遠友夜会研修例会」

主催 札幌遠友会

とき 平成16年9月11日

テーマ スローフード運動について

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「北海道消費者協会総会」

主催 北海道消費者協会

とき 平成16年9月14日

テーマ 北海道スローフードの目指すもの

講演 太田原高昭

(当研究所・所長)

○「平成16年度アグリビジネススクール地域マネージャーコース」

主催 日本アグリビジネスセンター

とき 平成16年8月30・31日

テーマ アグリビジネス展開の留意点

コーディネーター 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○「中・東欧地域農産物市場経済コース」

主催 JICA北海道支所

とき 平成16年9月28日

テーマ 北海道における営農支援システム

講義 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

編集後記

七、〇〇〇人が、感動をありがとうの大合唱をしました。去る八月二十四日北海道庁前広場の特設会場で開催された駒沢大学付属苫小牧高等学校野球部の全国制覇報告会に参集した道産子は、再度感動を味わいました。深紅の大優勝旗を一目見ようと、私も駆け足で参加しました。

優勝旗を掲げた佐々木主将を先頭に選手が入場してくると一斉に拍手がわき起こり、胸に熱いものがこみ上げてきました。香田監督や関係者の報

告が終わり、最後に佐々木主将が人差し指を高く掲げ「日本一取ったぞ、北海道やったぞ、道産子最高」と叫ぶと詰めかけたファンも同じく人差し指を高く掲げ喝和し、感動と歓喜と至福の時間を共有しました。

札幌市の瞬間最大風速五〇・一 m。

九月一日日に台風一八号が北海道を直撃しました。各地に爪痕を残し農作物や農業施設に多大な損害を残しました。今まで強風の経験が少なかったとはいえ好天に恵まれ豊作の秋を期待していただけにショックは大きいものがあります。遅ればせながら被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

さて今回の台風風が何故大きな被害をもたらしたか、の見方を紹介します。それは、建築基準法の新築家屋建築に適用される風速を、日本全国の風速を九種類（風速三〇m、四六m、二mきざみ）に分け、自治体ごとに「基準風速」を決めています。これが今回の一八号台風の「実績」と大きく乖離しているという見方です。

例えば、本道は低い方から二番目の三二m（札幌市・紋別郡等）、三四m（函館市・根室市等）、三六m（奥尻郡等）の三つの種類に属しています。しかし今回札幌以外でも瞬間最大風速が函館市四一・五m、根室市三九・三m、紋別郡雄武町五一・五mでした。

因みに「基準風速」の最大種類は、台風銀座である沖縄県等の四六mです。次に、記録的な台風となった原因は一八号台風の暖気と大陸からの寒気（上空五km付近はマイナス一五℃以下）が混じり合い、温帯低気圧に変わりながら再発達した、というものです。「洞爺丸台風」も今回と同じように寒気の流入で発達したと十分考えられる、と見えています。

今から五〇年前に、北海道を襲ったこの「洞爺丸台風」により道内全域の森林地帯は壊滅的な被害を受けました。絶望的ともいえる被害の中で人々は、暴風でなぎ倒された森林の再生を願い、そこに植林を行い、大切に育てあげてきました。

今年を振り返ると、「初物」だらけの体感の年であった、といえましよう。甲子園から深紅の大優勝旗が津軽海峡を史上初めて渡りました。また史上最大の風が北海道を通過し多大の惨禍を残しました。来年の営農の準備が始まるこの時期にあたり、二〇〇五年が今年を上回るハッピーな「初物」を本道にもたらすことを切に祈るものです。

（川原和雄）

DATA FILE

関連事項/DATA

旭川大学

〒 079-8501

旭川市永山 3 条 23 丁目

☎ 0166(48)3121 (代)

FAX 0166(48)8718

士別市役所経済部 農務課

〒 095-8686

士別市東 6 条 4 丁目 1 番地

☎ 01652(3)3121 (代)

FAX 01652(2)2478

川西有機農業研究会

〒 095-0064

士別市川西町 6 線西 32 番地

☎ 01652(9)2111

FAX 01652(9)2111

北海道大学農学部

農業経済学科 協同組合学研究室

〒 060-8589

札幌市北区北 9 条西 9 丁目

☎ 011(716)2111 (内線) 3880

(社)北海道地域農業研究所

〒 060-0004

札幌市中央区北 4 条西 7 丁目 1

☎ 011(281)2566

E-mail : kaihou@chiikinouken.or.jp

HP : <http://www.chiikinouken.or.jp>